

## 多文化共生実践校からの報告

### 大通の多文化理解教育～教科横断型ESDプロジェクト～

西原 明希・Sarah El-Lawindy（サラ＝エラウィンディ）市立札幌大通高校

外国からの渡日生徒・帰国生徒を積極的に受け入れ、また年齢層、英語を含めた外国語学習歴の幅の大きい集団を抱える単位制・多部制の学校で、さまざまな多文化理解教育が、教科の垣根を越えてESD（持続発展教育）プロジェクトとして継続的に取り組まれています。

この大通高校の実践報告を受け、基調講演とともに、今集会のテーマに迫りたいと思います。ヨーロッパの複言語主義が日本の英語教育に示唆するものは何かを参加者とともに考える契機となることを期待しています。

## 中学校・高校からの実践報告

### フォニックスの実践と小学校乗り入れ授業（小中連携）の報告

高橋 充 稚内市立潮見が丘中学校

### 生徒がいきいきと学ぶ英語授業の創造のために～楽しさと実際に力がつく授業の両立を目指して～

吉田 恵理 旭川市立東光中学校

### 生徒の「可能性」を育む音声重視の授業をめざして～「音読以前」から始める試行錯誤のアプローチ～

大井 輝美 北海道岩見沢農業高校

## 基調講演

### ヨーロッパの複言語主義を支えるもの

講師 **長野 督** (北海道大学教授)

この英語を中心とした全世界的なグローバルゼーションの中で、英語を母語としないヨーロッパがとった立場が「複言語主義」です。今回は、労働力が自由に動くことが前提となった統一ヨーロッパにおける複言語主義とはどのようなものなのか、様々な文化の人々が混じり合う中で、伝統的にあるいは現在において、最大限に摩擦を避けるためにどのような教育が行われているのかを、フランスを中心にお話したいと思います。

講師プロフィール



#### 長野 督 (ながの こう)

北海道大学教授。お茶の水女子大学、早稲田大学大学院卒業後、パリ第III大学にてフランス語教育学のDEA（博士論文執筆資格）を取得。国立の

外国語研究所であるCREDIFに1年間フランス政府給費留学生として派遣、東京での非常勤生活を経て、1999年より北海道大学メディア・コミュニケーション研究院、大学院教育学研究科学研究所所属。専門は外国語教育学、異文化コミュニケーション。



第44回全道  
外国語教育  
研究集会

**多言語主義社会を生きる現代の子どもたちに自分らしい英語の学びを！**

北海道新英語教育研究会

と き 2011年1月8日（土）  
9：30～17：00

会 場 市立札幌大通高校  
札幌市中央区北2条西11丁目  
011-251-0229

お申し込み・お問い合わせ

大口久克 hisakatsu.oguchi@gmail.com

☎/fax0137-84-4701（自宅）

☎0139-84-5047 /fax0139-84-2023（大成中）